

今後の農業センターの方向性に係る運営懇話会の意見等に対する考え方

項目	意見等	考え方
試験研究について	<p>試験研究は、古くから青果連と農業センターとで打合せを行い、現場の一番困っていることを試験課題としている。身近であり研究内容や栽培状況の確認ができていますので、これからも農業センターにおける試験研究の継続を望む。試験研究を外部委託すると情報が散らばるため、これからも青果連と農業センターで相談しながら継続すべきである。</p>	<p>試験研究は、農業センターが担うべき役割の根幹であると認識していることから、引き続き関係団体等と連携し実施していきます。</p> <p>また、新たな試験課題を探求し、より一層生産現場の課題解決に役立つ取組を進めていきます。</p>
新規就農について	<p>新規就農者にとって研修場所が少ないことから、基礎的な知識向上のためにも新規就農についての研修の強化を期待する。</p>	<p>新規就農に関わる取組は、今後の農業センターが担う役割として非常に重要なものと認識しています。</p> <p>新規就農を効果的に支援するためには新規就農関係業務を見直すほか、農業センターのほ場を活用した実地研修の実施に向けた取組を進めるなど、地域や就農希望者のニーズを把握しながら農業センターの機能を強化していきます。</p>
分析について	<p>土壌分析や残留農薬分析については、従来どおりに行うべきである。令和2年度から土壌診断手数料の料金が値上がりしたものの、生産者に対しては、土壌の基礎的な検査として勧めていきたい。残留農薬分析は絶対にやらなければならない事業の一つであり、生産者にとって有益であることから、これからも続けるべきである。</p>	<p>土壌分析や残留農薬分析は、生産現場において必要不可欠なものと認識しています。</p> <p>引き続き各分析業務や巡回指導を実施するほか、更なる土壌診断の利用促進や適正施肥栽培の普及を図る取組を進めていきます。</p>
	<p>生産者の立場として、土壌分析は是非とも引き続き行うべきである。土壌診断の結果による効果を感じている。</p>	
行財政改革について	<p>市では試験研究や分析の外部化を検討課題としているようであるが、農業センターでの試験研究や農薬の分析は、野菜を取り扱う者として安心・安全に向けての取組で大変重宝しており、こうした試験研究や分析に改革を求めることには疑問がある。今行っている試験研究、土壌分析、残留農薬分析については、今後も継続することを強く要請する。</p>	<p>試験研究や分析に関する業務については、関係団体等の意見等を踏まえた上で継続的な実施に努めていきます。</p> <p>また、施設の管理コストの節減を図り、できる限り農業を支援する機能の充実に努めていきます。</p>
都市と農村の交流機能について	<p>家庭菜園の講習会について、農協と農業センターが連携をとり行うこともできるのではないかと考えられる。</p>	<p>家庭菜園に関する講習会については、例年参加者から好評であることから、農協等とも連携しながら、引き続き開催に努めていきます。</p>
	<p>農業センターは市民の大切なお金を使って運営しているので、もっとたくさんの市民に利用してほしい。最近では、市民の利用が減少していると感じているが、施設があり大切な市民のお金を使っているので、まだまだ利用されるようにしなくてはならない。</p>	<p>より多くの市民が利用しやすい施設となるよう、子育てや福祉に関わる団体の体験農園の利用の検討や花壇等の情報発信の強化など、利用環境の向上に努めていきます。</p>
その他	<p>農業センターのような施設は、ある程度の経済効果が必要だと思われる。</p> <p>経済効果というものには、目に見えて目先ですぐに出るものもあるが、農協や生産者が、農業センターにおける品種試験、土壌分析、残留農薬分析を利用して物を販売し売上が上がるとすれば、その担い手の一つに農業センターがあるのであって、経済効果は十分にあると考えられる。</p>	<p>引き続き関係団体等と連携し、生産者の生産力の向上に役立つ取組を実施していきます。</p>